

「道徳の時間」の特質

(その2)

～ 補充、深化、統合 ～

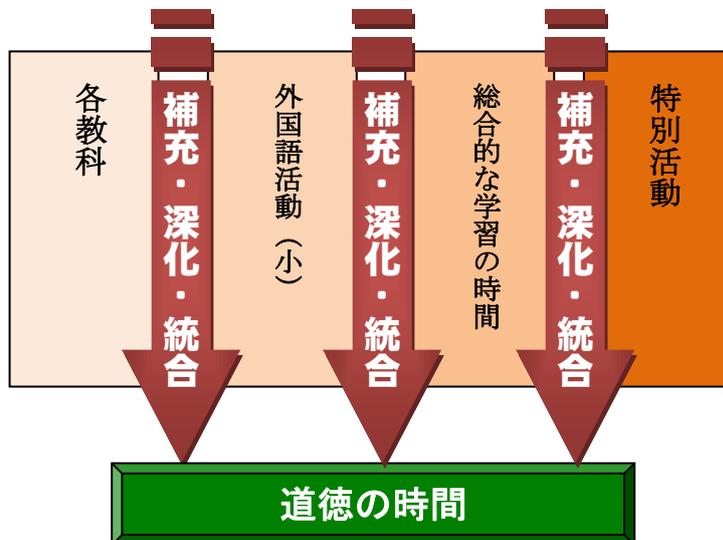
「道徳の時間」の特質

- 計画的、発展的に指導する。
- 補充、深化、統合する。
- 道徳的価値の自覚を深める。
- 道徳的実践力を育成する。

今回は、「補充、深化、統合する」ことについて確認します。次の図1を見てみましょう。



図1



■ 学校の教育活動全体で行う道徳教育を補充、深化、統合する。

「道徳の時間」は、教育活動全体で行われている道徳教育の「要」として、それを補充、深化、統合する役割を果たしています。

児童生徒は学校の諸活動の中で、様々な道徳的価値に気付いたり、学習したりします。「道徳の時間」は、学んだ道徳的価値を全体にわたって人間としての在り方や生き方という視点からとらえなおして、自分のものとして発展させようとする時間になります。





補充

児童生徒は、学校の諸活動の中で全ての道徳的価値について感じたり考えたりする機会があるとは限りません。

「道徳の時間」は、学校の諸活動で考える機会を得られにくい道徳的価値について補充する役割があります。

例) 教育活動全体で、「郷土愛」について学ぶ機会が少ないので、「道徳の時間」では、補充を意識して行う。

深化

児童生徒は、体験の中で道徳的価値の意味などについて必ずしもじっくりと考え、深めることができているとは限りません。

「道徳の時間」は、このように道徳的価値の意味やそれと自己とのかかわりについて一層考えを深化させる役割があります。

例) 日常的に、「生命尊重」について繰り返し指導している。また、7月は、「生命尊重」をテーマに講演会を行った。しかし、より意識を深めたいので、「道徳の時間」では、深化を意識して行う。

統合

児童生徒が多様な道徳的体験をしていたとしても、それぞれがつながりをもつ道徳的価値相互の関係や、自己とのかかわりの全体的なつながりなどを考えないまま過ごしてしまうことがあります。

道徳の時間は、それらを統合し、子どもに新たな感じ方や考え方を生み出すという役割もあります。

例) 6月は、老人福祉施設で福祉体験をした。9月も、幼稚園で体験活動を行ってきた。それぞれの体験をとおり、「思いやり」について考えることができた。しかし、「思いやり」について一般化されていない。「思いやり」について、一般的に全体的なつながりで捉えさせたいので、「道徳の時間」では、統合を意識して



図1の補充、深化、統合の矢印の方向についても留意しなければなりません。矢印は、諸教育活動から「道徳の時間」に向けられています。

その矢印を逆にとらえ、例えば「道徳の時間」を運動会の成果をねらって行うケースも見受けられます。しかし、「道徳の時間」は、特定の教育活動の成果のために行うものではありません。その点に留意する必要があります。もちろん、「道徳の時間」の指導が授業以降のさまざまな教育活動に生きることもありますが、即効性を求めるものではなく、あくまでも道徳的実践力の育成を目指して行われるものですので留意したいところです。